

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／スタジオハーツ

## 本人にその気があれば、 いくらでも人間は変わる。 教育の力を信じたい

徳島文理大学  
学長  
桐野 豊



### 本

学の特長の一つは、多様な学部学科を擁していること。9学部26学科という学部構成は、西日本の私立大学のなかでも有数の規模といえるでしょう。こうした、総合大学としての学びのスケールの大きさは、図書館や実習施設など、教育施設面の充実を可能にするばかりか、地方の大学に期待される役割、すなわち地域の人々をもつ多様な要請に広く応えるという重要な役目を果たしているといえます。いっぽうで1学科の学生数は1学年40〜150人程と、一人ひとりの学生の顔がわかる規模。学生一人当たりの教員数が多いのも特長です。このように「大きく、かつ小さい」本学の存在は、機能分化がすすみ、単科大学

も多い都市部の大学とは対照的な、地方大学の一つのあり方を示していると感じています。

そうしたなか、本学では近年、臨床工学科、看護学科、理学療法学科など、医療系の学科を充実させてきました。高齢化が加速する社会において、医療・福祉は教育と並ぶ国民の重大な関心事であるからです。2012年度には診療放射線学科を新設予定であり、これにより薬剤師や社会福祉士、臨床心理士、音楽療法士など、医師を除いたほとんどの医療系専門職が同一キャンパスで養成されることになりました。医療職の高度化、専門化がすすむなか、異なる学科の学生どうし連携した教育を行うことで、チーム医療を担

える人材が育つと期待しています。

私が本学で育みたい人材像を、ひと言でいうなら「良き市民」です。社会の中核を担う市民として、良識と品格を身に付けてほしいのです。大学への進学率が50%を越すなか、リーダーだけを養成するというのはおかしい。大学を出て、多くは「市民として生きていくわけです。その一人ひとりが良識をもつ。それこそ社会全体の発展に貢献する重要なことだと思います。入学生の実質だけを議論する人は多いですが、それは現実を無視した論です。社会はいま、大学に入口で選別する役割を期待してはいません。門をたたいてきている学生を立派な社会人とする、それが私たちの役割と考えています。

私は、教育の力を信じています。本人にその気があれば、いくらでも人間は変わります。だからこそスタートを大切にしてください。大事なのは、入学直後から5月の連休までのひと月。この間に大学生活にとけこみ、学習態度を身に付けることです。その後押しをするため、全教員がチューターとして新入生につきまします。学習ポートフォリオを活用し、学習から生活面までとことんサポートします。皆、私同様、教育の力を信じている人たちです。

【学長プロフィール】きりの ゆたか●1944年生まれ。東京大学薬学部卒業、同大学大学院薬学系研究科博士課程修了。九州大学薬学部教授、東京大学薬学部教授、同大学大学院薬学系研究科長兼薬学部部長、同大学理事兼副学長などを経て、06年より現職。薬学博士。

【大学プロフィール】1895年創立の私立裁縫専修学校を前身に、1966年徳島女子大学開設。72年徳島文理大学と改称。薬学部、人間生活学部、保健福祉学部、総合政策学部、音楽学部、短期大学部（以上、徳島キャンパス）。香川薬学部、保健福祉学部（届出中）、理工学部、文学部（以上、香川キャンパス）。